



くだもの里まつかわ
ふたつのアルプスに抱かれた百年続く果樹園とどろきの先へ

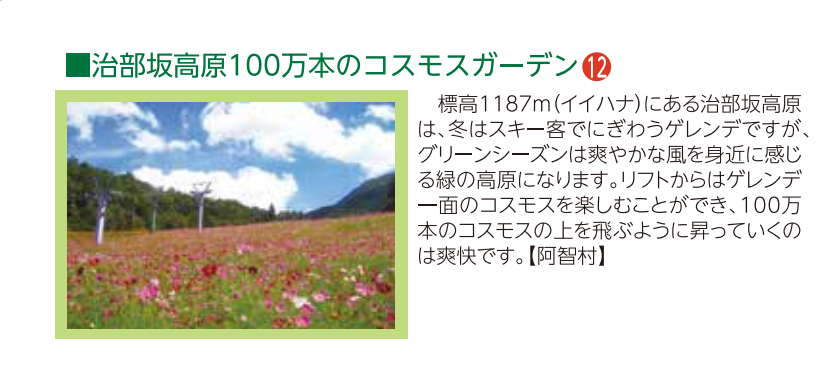
まつかわ旅の案内所
長野県下伊那郡松川町大馬路2788-1 電話 0265-36-6320



平谷村のまわり畑
【夏】
平谷村のまわり畑は、8月上旬から10月下旬まで、約200種類の花が咲き誇る。見どころは、花畑の奥に広がる美しい山並み。花畑の奥には、美しい山並みが広がっています。



観音堂の枝垂れ桜
【冬】
観音堂の枝垂れ桜は、11月中旬から12月中旬まで咲きます。桜の枝が、観音堂の屋根に垂れ下り、美しい景観を演出しています。



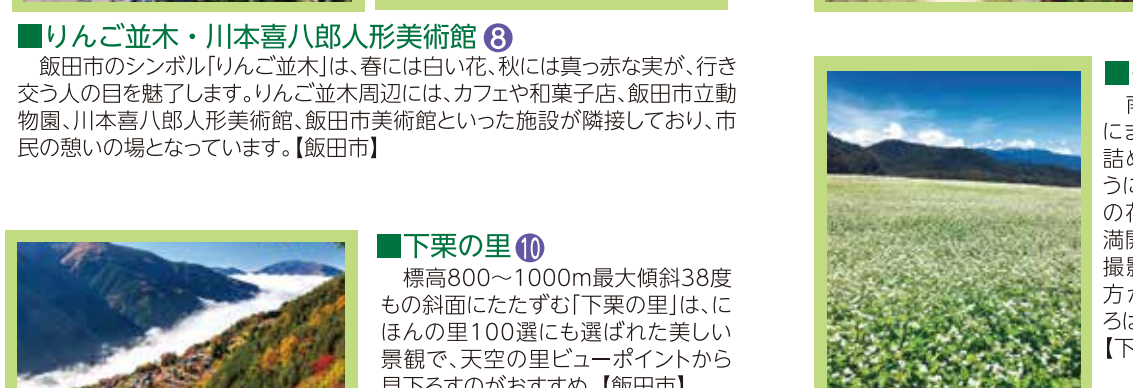
100万本のコスモスガーデン
【秋】
100万本のコスモスが咲き誇る美しい景観。家族みんなで楽しむのに最適なスポットです。



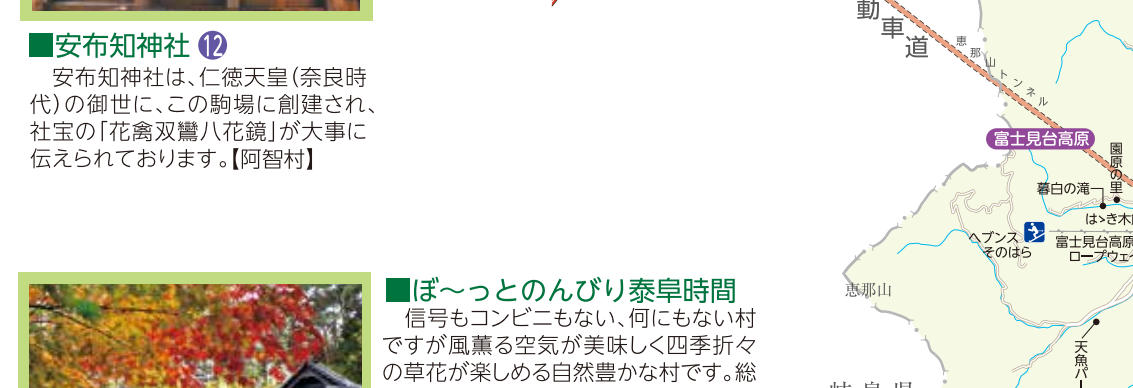
信州平谷温泉 ひまわりの湯
信州最南端のファミリー・グレンデ
ひらや高原スキー場
みなみ信州最大級の露天風呂



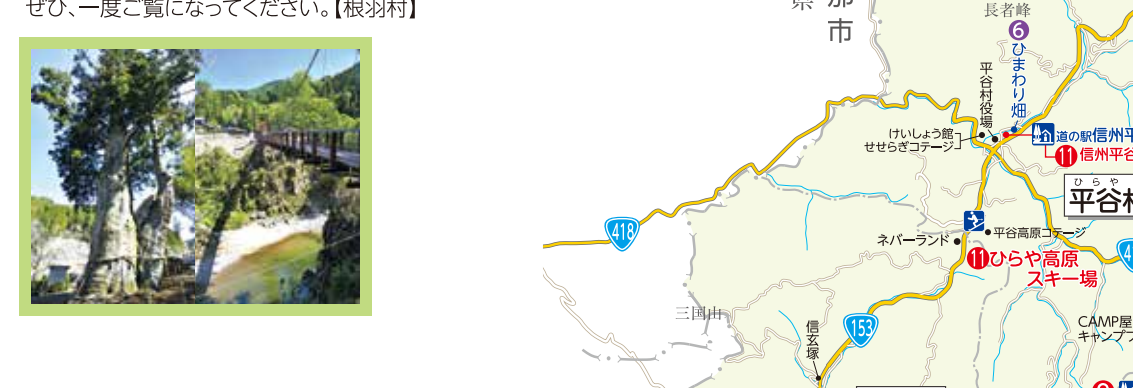
■天龍峡大橋
・そらさん天龍峡
三河南信州、天龍峡に千代代に架かる橋で、全長280m、高さ80m。天龍峡大橋の車道下に設けられた歩道「そらさん天龍峡」は、天龍峡の絶景が望める新観光スポット。眼下に見える電車や天龍川を下る舟なども見どころ。【飯田市】



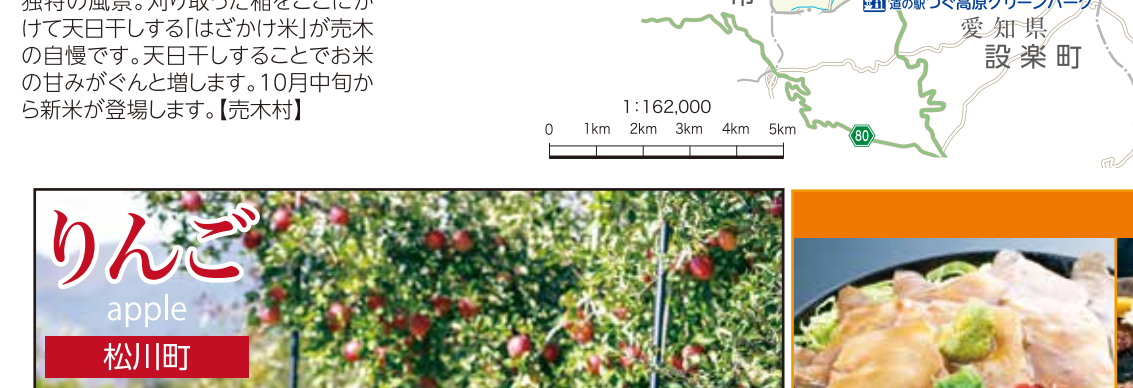
■しらびそ高原
標高1918mにあるしらびそ高原は、南アルプスはもちろん、北アルプス、中央アルプスまで望める360度のパノラマが楽しめます。残雪の残る春、新緑の広がる夏、紅葉の季節、そして紅葉の秋と季節を満喫できる事ができます。【飯田市】



■りんご並木・川本喜八郎人形美術館
飯田市のシンボルりんご並木は、春には真っ赤な実が、行き交う人の目を惹きます。りんご並木周辺には、カフェや和菓子店、飯田市立動物園、川本喜八郎人形美術館、飯田市美術館といった施設が隣接しており、市民の憩いの場となっています。【飯田市】



■下栗の里
標高800〜1000m最大傾斜38度の斜面にたつた「下栗の里」は、にほんの里100選にも選ばれた美しい景観で、天空の里ヒューポイントから見下ろすのがおすすめです。【飯田市】



■ぼへつとのんがり温泉
信号もコンビニもない、向かいもない村ですが、風薫る空気が美味しい四季折々の草花が楽しめる自然豊かな村です。総合レジャー施設「あひはるやすらお」は、信州トップレベルの自然に囲まれた美しい公園です。時期がくると、温泉の湯気が立ち上り、ぼへつとのんがり温泉の魅力を堪能できます。【松川町】

■月瀬の大杉/月瀬の大杉公園
根羽村は約92%が森林で構成されており、自然にあふれた村です。根羽村のシンボルでもある月瀬の大杉は国の天然記念物に指定されており、樹齢約1800年、樹高約40m、幹回り約14mの長野県第1位の古木です。ぜひ、一度ご賞観ください。【根羽村】



■そら畑
南アルプスを背景にまるで一面に敷き詰められた絨毯のように、白く小さな花が咲き誇ります。満開の時期には写真撮影のために多くの方が訪れます。見ごろは9月中旬です。【下條村/中野地区】



■安布知神社
安布知神社は、仁徳天皇(奈良時代)の御世にこの駒場に創建され、社名の「花高斎八花鏡」が大事に伝えられています。【阿智村】



■はざかけ米 “うるぎ米”
田んぼのあぜ道などに植えられる木組みの昔ながらの「はざ」は、この地方独特の風景。刈り取った稲をここにかけ、天日干しする「はざかけ米」が先人の自慢です。天日干しすることでお米の旨みが増します。10月中旬から新米が登場します。【水内村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■天龍村の霜月神楽
天龍村には国の重要無形民俗文化財に指定されている霜月神楽が三つあります。正月の1月3日に天龍村向方地区の「天照皇大神宮」で行われる「向方お祭り」、1月4日に天龍村坂部地区の「大森山講社」で行われる「坂部の冬祭り」、1月5日に天龍村大河内地区の「池大神社」で行われる「大河内池大神社例祭」がその三つです。神楽を鑑んで、神楽に奉納される神楽はどれも、勇壮な舞であると同時に優雅で美しく、これまで受け継がれてきた歴史の重さ、いまに受け継ぐ方々の強い誇りを感じることが出来ます。【天龍村】

■台城公園つじ祭り
戦国時代末に伊那郡を支配した武田氏が築いた城跡、台城公園。白、紫、黄色など、5000本のつじが咲き誇ります。このつじ園で咲き誇るつじは、本丸では短く、ふしと花が楽しめる。ゴールデンドームには台城公園つじ祭りが開催されます。【松川町】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



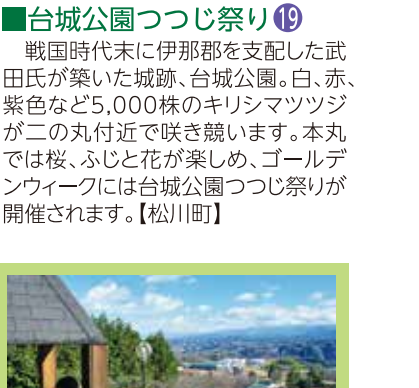
■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



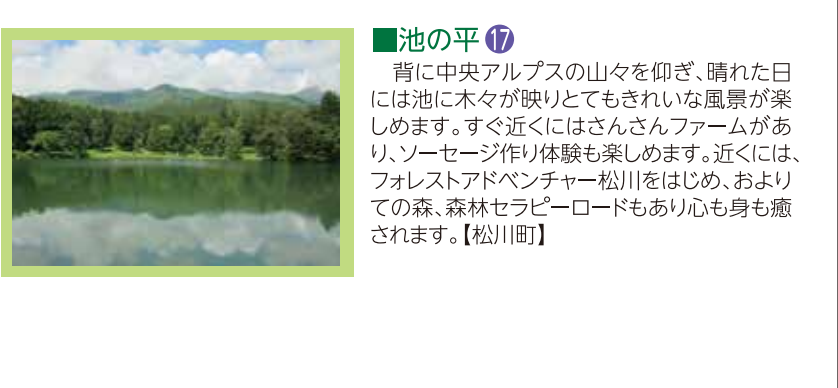
■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】



■いざなす
天龍村神楽地区に住んでいた田井沢久吉さんが、明治20年(1887年)頃、東京の植木屋から種子を取り寄せて栽培が始まったといわれています。最初に栽培を始めた田井沢さんの名前にちなんで「田井沢なす」と命名されましたが、地元では「いざなす」と呼んでいます。そのほか、恩澤博司さんが受け継ぎ、今では村内の複数の農家で栽培されています。7月〜11月まで収穫でき、大きいものは1kgにもなります。【天龍村】